

常任委員会行政視察報告

総務企画委員会

◆視察月日 7月18日～20日

◆視察市 山口県柳井市

山口県光市

◆視察項目

行政改革大綱について
集中改革プランについて
街並み景観整備づくりについて
総合計画策定について
財政健全化計画について

柳井市集中改革プランについて

17年2月合併した柳井市は、火力発電所償却資産による固定資産税収入の特異性、基金の減少、増加する扶助費など本市と共通している。合併後の財政状況について将来予測をしたところ、大幅な財源不足となり、市民にわかりやすく財政状況と集中改革プランの方針を公表し周知を図るとともに、職員の意識・行動



柳井市役所前で

改革についても研修会を開催し取り組んでいる。また、情報の公開（職員388人を21年度には364人に削減するなど目標数値を公表）で市民の理解を得るなど重点的に推進する。組織機構の見直しは2～3年の間に実施する。また、行政評価システムを導入しており、予算編成時の各課のヒヤリングの段階が事務事業評価として表れている。市長を先頭に行政、市民が一体となった柳井市の取り組みは、本市でもと感じた。

光市財政健全化計画について

光市は、新日鉄、武田薬品を中心とした産業都市で、主な歳入は市税が46%、交付税10%となっており、総合計画策定に当たって財政健全化計画の中で財政計画と実施計画との連動を明確にしている。今後5年間の財政収支見通しを分析したところ、総額で25億5700万円の財源不足が見込まれたため、健全化計画を策定した。計画はこれまでの方針を踏まえ、特別会計等との整合（連結会計）を図り、21年度までに経常収支比率90%以下、財政調整・減債基金は標準財政規模の10%とするなど、数値目標を掲げ、歳入歳出に具体的な方策を盛り込み実施している。財政再建準用団体への転落を回避するとの危機感を持ち、財政構造の体質強化を図って積極的に取り組んでいる光市の状況を見たとき、本市もより厳しく臨まねばと感じた。

文教民生委員会

◆視察月日 7月18日～20日

◆視察市 兵庫県三木市

京都府宇治市

◆視察項目

国民体育大会の民泊の受け入れ
三木市総合型スポーツクラブ
余裕教室を転用した老人福祉施設

国体の民泊受け入れ

三木市吉川町では「のじぎく兵庫国体」で、全国から集まるソフトテニス少年女子47チーム517人の受け入れを予定。民泊形態は、公民館を拠点施設として利用、入浴、宿泊は民泊家庭で行うという共同民泊方式である。1次、2次の説明会を経て40の民泊協力が組織化された。民泊協力会への助成金は1チーム30万円、標準献立普及調理講習会や食品衛生講習会の開催など「国体の成功は民泊の成功から」という意気込みであった。

総合型地域スポーツクラブ

三木市では、県の育成モデル地区として平成12年に別所町に設立され、2つの小学校に1つのクラブを目標に現在は14クラブが設立されている。地域の子供から大人まで、ライフステージに応じた活動や地域コミュニティの形成を狙いとし、複数の種目の実施と、無理なく通える所に拠点を置いている。また、自主的運営を特徴としている。

当初に比べ大人の会員が減少している。指導員の確保や補助金も5年



三木市での研修風景

間で終了するので会費の値上げも課題となっているとのことであった。

余裕教室を転用した老人福祉施設

宇治市では、200を超える空き教室の有効活用について論議が交わされた。文部科学省では施設の転用は社会教育、文化活動などを目的とした施設が望ましいとの考えで福祉施設の活用には触れられていなかったが、営利目的、学校教育に支障が生じないことを条件に特例措置が認められパイロット自治体の指定を受けた。学校運営に支障が生じないよう福祉施設専用玄関を設け、平日の昼休みに5、6年生の福祉委員や近くの保育園児との交流も実施している。デイサービスセンターのほか地域のお年寄りが気軽にくつろげるデイルームもあり、お風呂の利用や、週1回囲碁クラブの児童がお年